婦人の声…市政に生かして欲しい

伝統の第21回市政会議

〝主婦の声を市政に〟と南国市連合婦人会（西森律会長）が開いている第二十一回市政会議が、一月二十八日行われ、各地区の代表約六十名、執行部からは小笠原市長や吉本・国沢両助役、各課長が出席して開かれました。

議会からは島内議長、岩原副議長、各常任委員長などが傍聴、討議は約四時間、市政全般について、熱の入った意見・要望などの交換を行いました。

まず西森会長が『今年は国際婦人年の折り返し点に当たり、市政に対しても厳しい目を向けて、婦人活動の発展の一助にしたい。寄せられた多くの意見には厳しい表現もありますが、より良い南国市を目ざしての卒直な気持ちであり、前向きに市政に生かして欲しい』とあいさつ。

これに対し、市長は『毎年、みなさんが行政の内容を分析して、市政に対する意見を聞くことは、議員さんと違ってまた良い勉強になります。しかし卒直に言って、みなさんの要望を全て入れるとなると税金が倍以上必要です。今日はかけ引きなしに親しみを持って遠慮なき討論をお願いします』とあいさつし、意見交換に入りました。

主な質問の内容

□財政難は市民も良く知るところですが、厳しい反面大きな事業や市民からの要望も多くあると思います。再建の見通しと約束の事業の実行はできるのか。

■五十年に赤字が発生、五十一年より再建に取り組み順調に進みましたが、昨年頃よりこう着化して来ました。現在、公社には十四億円の借金があり金利も年一億円を越し、年二億円の返済をしても十年以上かかります。また大型事業の関連事業もあり、市民の要望も整理し慎重に検討した上で重要なものから対処していきます。

□空港拡張に伴う騒音対策、切戸放水路の問題、吾岡山の跡地利用の具体化、さらに工場の誘致の見通しはどうか。

■騒音対策については、機械的に線引きしますので難しい問題もあります。また決定告示はされていませんが、約四百戸が対象となり、五十七～五十八年度にかけ防音工事を実施する予定です。切戸放水路については、地元と九分九厘話が進んでいます。吾岡山の跡地利用は、四十五㌶までカットして公園化という要望もありますが、所有者の日本セメントの手で鉱石を除かなければならない点、市街化区域・財政的問題などがあり、今のところ具体案はできていません。

工場誘致についても具体的な話は聞いていませんが、地価や雇用人員の確保など、企業の立地条件を満たすよう努力しなければ難しいと思います。

□職員数は多過ぎはしないか。また配置についてももっと適材適所を心掛けて欲しい。給与は高過ぎないか。

■南国市の場合、住民百二十八人に一人の割合であり、県内の市の平均は百人を切っていますので、それほど多いとは考えていませんし、今年も採用を抑制しています。小数精鋭に努め、適材適所の配置ができるよう努力します。給与については、各市との均衡も考え適正な方向で検討してゆきます。

□木材産業の不況の中で、比江山木材団地のメリットはあるのか。

■県政への協力という形で進めてきましたが、固定資産税、市民税などの増収および雇用の促進という面でもメリットはあります。さらには地場産業の育成ということにもなります。

□同和問題は、意見を出すことも難しいという意識もある。アンケートの中にも前向きな姿勢のものもあるが、逆にもうよいのではという意見も多くあるが。現在進められている小集落整備事業の見通しは。

■この問題は、市ぐるみで取り組むべき問題です。先になれば自然になくなるという声もありますが、各団体が努力し、百年経っても差別事件が起っているのが現状です。真の同和問題とはどういうものか、学校教育、社会教育の場を通じての教育は大事であり、今後とも努力して行きたいと思います。

小集落整備事業について、計画性に疑問があると言われますが、国の制度の目的に沿って、国・県の指導の下に執行してゆき、大半は国の費用で市としての負担はあまりありません。

□し尿処理場の建設には二十億円も必要であり、維持費も年一～二億円も必要と言われるが、見通しはあるのか。

■具体的にはっきりした見通しはありません。地元に相談しても、いざとなるとなかなか難しく反対の声もかなりあります。現場視察や研究を重ね、議会にも機種の選定などで協力していただいています。

□くみ取り料金が高く、また不正確のように思うが、市として指導してもらえないか。

■確かに料金が高い。その原因は黒滝までの距離が長く運搬費がかかるためです。正確な料金算定については、市内の四業者に指導はしていますが、みなさんもゲージの確認などして注意してください。

□水洗便所の許可申請はどのように。

■許可する権限は知事にありますが、市では指導要項に従って区長や衛生委員の承諾書を添えて県へ許可の申請の手続きをしています。しかし、中にはもぐりで行っているところもあり、苦情がありましたら環境保健課まで連絡してください。

□地区公民館の建設は、稲生・日章・野田で要望が出ているそうですが、その時期は。また、十市・稲生小の改築についての見通しは。

■長年の課題ですが、はっきりした時期はわかりません。学校改築については、五十七年度大篠小・香長中を運輸省サイドの補助金で行いますが、一億円以上の市の持ち出しもあり、財政難の現状から具体的な約束は申し上げられません。しかし状況は本当に良くわかっています。

□青少年の非行はますますエスカレートしていると聞くが、実態はどうか。それに対処するための行政としての指導は。

■シンナーによる補導が十一件、海岸やアパートで起っています。対策としては、密室で行うことが多くまず販売管理が第一です。万引きについても市内の商店で発生していますが、まずは警察ではなく補導センターに連絡してください。最近の特徴としては、家出が多く発生していることで、その原因が全て異性問題がからんでいることです。

非行は、学校・家庭・社会の責任と言われるが、やはり私たちが悪いことは、はっきりと子どもたちに知らせるよう努めることが大切です。

□減反政策で転作作物として、そば、大豆、牧草など奨励されているがもっと他の品目の導入など考えてみては。転作金が農家を過保護にしているという声も聞くが。

■政府の対策としては、米の絶対量を減らすことを目的とし、もしその面積を実行できないときは、農業部門の補助金のカットなど強い対応も考えています。

転作作物については、それが実際に所得に結びついているかと言うとそうでもないようです。これからの有利作物として、オクラ、甘しょ、スイートコーン、しょうがなどが考えられます。

南国市の水田面積二千六百㌶のうち千八百㌶が対象で七十㌫を越す転作面積になります。しかし南国市の場合は二回作の実績が認められ、一回作だけを作らなければ良い訳で、最終的には三十㌫位になります。

□医療費の中で老人医療費の占める割合が年々多くなり、ちょっとしたことで病院に行く傾向にあり、現在のような無料ではなく一部負担があっても良いのでは。

■ご指摘のような面はあるようですが、機会あるごとに指導はしています。無料化の廃止については、今年の十月より初診療五百円、入院一日につき三百円が自己負担になる予定です。

□国保税が他の市町村に比べ高いようですが、もっと安くしてはどうか。

■他の市町村に比べ高いということはありません。年々医療費の上がっていく中で国保税を安くするということはできませんが、みなさんが保険をムダなく有効に使うことによって、保険税の値上がりを抑えることはできます。

□消防分団に寄付することはいといませんが、そのお金が夜警の後の飲み代とか慰安旅行などに使われていると聞くが、きちんとした使い道を知らせて欲しい。

■今度の分団長会で、みなさんに納得のいくような説明をするよう言い伝えます。

討議終了後、講評に入り議員からは『家庭から飛び出した高い視野から行政を見ている。また職員の勤務状態など議員もよう言わない面もはっきり言っている。』『あまり範囲が広過ぎて突込みが足りない面もある。』『議員の発言権もあっても良いのでは。』などの声が出ていました。

婦人側の声としては、『ここで問題になったことを、課長さんは職員にきちんと知らせて欲しい。』『国保税については資料まで作っていただき、親切な説明ありがとうございます。』『課長さんが変わられましても約束は果して欲しいが。』と執行部への不信感も少し。

早や〝二十一年目の市政会議〟年に一度の単なる行事という考えでなく、婦人がより良い南国市を目ざして意見を出し合う場として、さらに厳しい目で絶えずみつめて欲しいものです。